

「iPhoneWショック」で「ファナック」筑波工場が大ピンチ!

実業界

5

The Analytical
Magazine
for Economics

2013

毎月1日発売

昭和27年2月28日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行 平成25年5月1日発行 第1011号

「ソニー」 脱「電機」水面下で進む 医療事業深入りの空虚

■「日本ペイント」
アジア企業からの
“買収提案”で揺らぐ
小細工効かめ正念場

■「ヤマダ電機」
期待のスマートハウス事業も
子会社「エス・バイ・エル」
不振で空回り

2012

2011

2010

2009

2012

2011

2010

2009



省エネに最善・最適なソリューションをワンストップで提供 省エネ照明「E・C・C・O・O・L」採用で新たな市場開拓に期待

紀陸保史

OKIウィンテック社長

OKIグループで情報通信、電気・エネルギーの工事を担うOKIウィンテック。昨年から始めた省エネトータルエンジニアリングサービス「SEEMS」は、省エネの最適なソリューションをワンストップで提供し、注目を集めている。紀陸保史社長にOKIウィンテックの取組みを聞いた。

——まず、御社の事業内容をご説明ください。

紀陸 OKIウィンテックは主に三つの事業を行なっています。「情報通信システム」「カスタマサポートサービス」「電気・エネルギー設備」です。当社は一九六〇年に沖電気工業から分離独立して「沖電気工事」として設立、二〇〇〇年に現在の社名に変更しました。二〇一〇年にO

KIの一〇〇%子会社になりましたが、その前は東証二部に上場していました。情報通信システムは九割がたOKIが販売した電話システム、ネットワーク、無線、セキュリティ、監視カメラやテレビ会議などの映像関係の施工を行なっています。また、社会インフラの施工を行なっており、高速道路のETC、消防のデジタル通信、防災無線、航空管制

システムなどがあり、昨年オープンした新東名のETCの設置工事はすべて当社が行ないました。今後期待しているのは消防無線や防災無線のデジタル化です。二〇一六年五月に現在の消防署と消防車、救急車の間のアナログ無線は停波になり、デジタルに変わります。震災後は防災無線のデジタル化も進んでいます。公共事業への取り組みが増え、社会インフラ部分は業績が良くなってきました。二つ目のカスタマサポートサービスは、電話システムやセキュリティシステム、映像システムなどを保守しています。東京・品川区の荏原にあるテクノセンタで二十四時間、三百六十五日、状況監視を行い、保守作業を行なうスタッフも常駐しています。

三つ目の電気・エネルギー設備は、オフィスビルや工場、商業施設の電

気・エネルギー設備の工事をこなしています。その中で、ビル監視システムも持っています。六本木ヒルズなどは当社がビル監視を行なっています。また、半導体工場の電気工事を数多く手掛けており、その経験から、クリーンルームなどハイテク設備を持つ工場の電気工事ノウハウもあります。もう一つ、トンネルの非常用の防災設備があります。OKIグループの「沖電気防災」で温度センサ等を作り、我々が工事を担当しています。老朽化しているトンネルも多く、更新が今後始まりますので、この分野はこれから増えてくると思っています。

——そうした中で、省エネトータルエンジニアリングサービス「SEEMS」を開発し、昨年三月からサービスを始められました。

紀陸 電気・エネルギー設備の中



紀陸保史社長

でオフィスや工場などの電気工事をやってきました。「次はどうするんだ」ということが課題になってきました。震災の前はどちらかといえば「エコ」でした。CO₂削減に対して我々はどうお役に立てるのか。しかし、震災以降は「節電・省エネ」に舵が切り替わった。そういうことも相まって、O K I ウィンテックが持っている電気・エネルギー設備の技術力を活かし、省エネを推進できるようなことを考えていこう。老朽化した電気設備をただ取り替えるのではなく、省エネにつながる、エコに良い、電力料金が値上がりしても消費電力

が抑えられる、そういった考え方を提案しなければいけない。そこで「SEEMS」というコンセプト、考え方を昨年、立ち上げました。まずはエネルギーの「見える化」をする。エネルギーをどう使っていけば良いのかをコンサルティングする。次に、省エネと創エネ。そして、コールセンターで「今どうなっているか」の問い合わせを受け、メンテナンスを行なう。また、新しい「見える化」を提案する。こういう取り組みが循環する仕組みをパッケージ化したのがSEEMSです。省エネに最善・最適なソリューションをワンストップ

で提供し、マネジメントも、ファシリテイサービスマも行ないます。エネルギーの見える化では、WEBで月額六千五百円からの料金で今の消費電力がどうなっているかをリアルタイムでレポートするようなシステムも持っています。

す。それを見て、エネルギーマネジメントを提案して、必要ならば我々の持つ中央監視のビル管理システムを提案する。省エネ・創エネでは照明を換えたり、太陽光発電の設置工事も請けます。SEEMSでは、CO₂の二〇%削減、トータルエネルギーの二五%削減、運用コスト一〇%削減を実現しています。

——そのSEEMSで、省エネ照明「CCFL」を導入され、CCFL製品「E・COOL」を製造販売するオプトロム(三浦一博社長)と販売代理店契約を結ばれました。

紀陸 去年、SEEMSを始めた頃は、震災もあり、皆さんの関心はやはり照明でした。その中で、従来のLED以外の照明はないかということと、オプトロムさんとコミュニケーションが取れまして、「E・COOL」をいろいろ勉強して、昨年十一月から本格的に取り扱いを始めました。そして、当社が一次店となりました。我々は、電気工事ができます。北海道から九州までネットワークがあつて工事のメンバームも全国にいます。オプトロムさんが直接販売されるよりも、我々が一次店として

取り扱うことにより、二次店が請けた工事にも全国で対応できます。ただ、LEDをやめるつもりはありません。LEDと「E・COOL」は適材適所で提案していこうと考えています。とくに、CCFLの「E・COOL」は蛍光灯と同じ光が均等に照射され、三波長があつて自然な白の光が出る。エネルギー消費はLED並みに抑えられ、寿命も四万時間と長い。熱くならないという特徴もある。そうするといろいろな使い道が出てくる。学校、病院、高齢者施設、デザイン関連のオフィスなどにはマッチできると思います。また、埼玉県にあるO K I グループのソフトウエアセンターで実験ラボ程度の規模ですが「植物工場」に取り組んでいて、熱の出ない「E・COOL」をレタスの生育に使ってみようと考えています。そして、照明だけでなく、植物ラボの全体の温度管理、CO₂管理、部屋全体の熱量の管理といったことを、遠隔監視してエネルギーマネジメントするのが最終目的です。「E・COOL」を持ったことで新たな市場開拓ができると期待しています。(聞き手/林 正徹)